



## AFS 日本協会は60周年を迎えました



第1次世界大戦中、傷病兵の救護活動に端を発したAFS(American Field Service)は、今年で100年を迎えます。そして、異文化理解を目的に高校生の交換留学を推し進め、AFS日本協会は60周年です。この間、派遣・受け入れ合わせて2万人超が年間留学プログラムに参加しました。国内に70ある支部の一つ、北神奈川支部での活動はローカル、でも思いはグローバル。絆を拓き、つなげる活動を続けています。いま、支部の受け入れ留学生は6人。そして支部から年間留学中の日本人高校生は8人。来年度は11人が羽ばたく予定です。



### 留学説明会



北神奈川支部では年に2回(3月と7月)留学に興味のある中高生と保護者の皆さんにAFSでの留学の方法とその魅力について、お知らせする留学説明会を開催しています。7月28日の留学説明会ではベルギーや米国、フィンランドに留学した先輩や中国からの留学生を受け入れたホストファミリーに体験を話してもらいました。

### 派遣



今年、北神奈川支部から派遣された留学生は、2月にオーストラリア、ニュージーランド、8月、9月に米国、フィンランド、フランスへと飛び立っていきました。留学の合格通知が届いてから出発までに、支部行事に参加し、帰国生の話を聞いたり、同期生同士で情報交換をし、留学の準備を進めます。彼らは現地で1年間、ホストファミリーやホストスクールの友達と生涯忘れることのできない濃密な関係を築いて帰ってきます。帰国報告会では、まだ冷めやらぬ興奮のまま、現地での苦勞を明るく報告して、たくましく成長した姿を見せてくれます。



### 留学生の受け入れ

世界約50カ国の交換先の中から、3月にはコスタリカ、ドイツ、スウェーデン、8月にはトルコ、スペイン、スイスから留学生が到着し、ホストファミリー宅から高校に通っています。部活はもちろん体育祭や文化祭などの行事にも参加しました。初体験の日本の夏の暑さも乗り越えて、春組生たちはだいぶ使えるようになった日本語をフル活用して、さまざまなことに積極的にチャレンジしています。(下右の写真は夏休みのフジサマーキャンプ。留学生と日本人高校生、学生ボランティアがキャンプ生活を通して交流を深めました。下左の写真は「日本郵政留学生の集い」)



### 61期派遣生の紹介

Y.K.(オーストラリア)、S.Y.(ニュージーランド)、H.K.(フィンランド)、H.I.(フランス)、A.A.、Y.A.、E.I.、M.K.(以上アメリカ)

ドイツから来た  
マリオスです

ホストファミリー：  
I さんご家族  
ホストスクール：  
桐光学園高校



シュツットガルトから来ました。17歳です。両親はギリシア人で、兄が2人います。日本での学校ではスキー部に所属しています。日本人はとてもファッショナブルで東京が近代的なのにビックリしました。ドイツの学校生活は、勉強より交友関係を大切にしている自由です。

最初に覚えた言葉は、「お箸」「早い」「遅い」。

気に入った言葉は、「べたべた」「マジ」。好きな食べ物は、ラーメン、鶏の唐揚げ、とんかつ、ドイツではママが作るギリシア料理とパスタ。日本のミュージシャンではAKB48、きゃりーぱみゅぱみゅも知っています。大学では国際関係学を学びたいです。

スウェーデンの北にあるオステシュンドから来ました。8月に18歳になりました。弟と妹が2人ずついます。

スウェーデンから来た  
チュアです

GWの月曜日に地震があった時にはすごくビックリしました。

スウェーデンの学校ではランチはカフェテリアで食べるのでお弁当は持っていきません。日本に来て初めて覚えた言葉は

「発表会」「洗う」、気に入った言葉は「ドキドキ」「マジ」です。

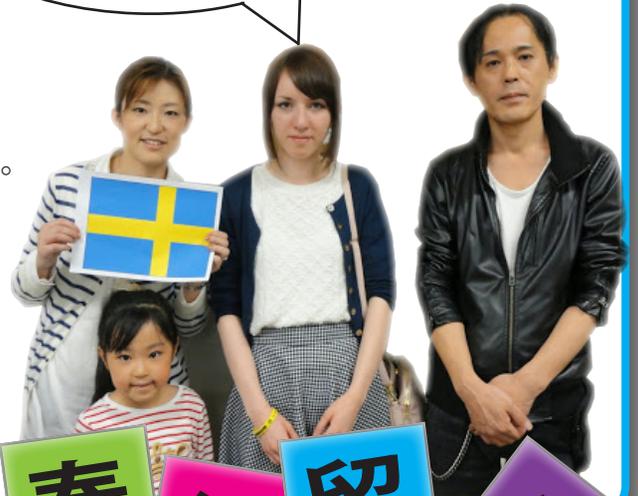
好きな食べ物は、たこ焼きとスウェーデンのケーキ。

日本のミュージシャンたくさん知ってますよ！AKB、

モーニング娘。とか！大学に行ったら天文学を学びたいです。

ただ、実は色んなものに興味があります。

ホストファミリー：S さんご家族  
ホストスクール：聖セシリア女子高校



コスタリカから来た  
ディエゴです

ホストファミリー：H さんご家族  
ホストスクール：伊志田高校



18歳で姉がいます。コスタリカでカトリックの学校に通っていた時は校則も厳しく、その意味では日本の学校に似ていると思いました。

日本に来て驚いたことは交通が便利なことです。部活はテニス部です。県地区予選大会予選を1位で通過し本選にも出場しました。

弓道も始める予定です。最初に覚えた言葉は「ありがとう」「いただきます」。

気に入った言葉は「がまん」。好きな食べ物はそば、

すし。コスタリカで好きなのはラザニア。AKBは知っています。

自動車に興味があるので、鈴鹿に行ってみたいです。大学は工学部に行って、できれば日本の自動車会社に勤めてみ

たいです。

トルコのサカリヤ(首都イスタンブールからバスで1時間半)出身。トルコは97%がアジア大陸、3%がヨーロッパ大陸に属します。物価は日本の半分くらい。主食はパンで野菜もたくさん食べます。チェスが盛んで学校でチェスの授業があります。アニメとドラマが好きで、日本で文化を学びたいです。ホストスクールではバレーボール部に所属しています。音楽の授業をとっていて、音楽祭で歌を披露する予定です。単語帳を使って、既に漢字を75字覚えました。好きな日本語は「ちょーかわいい!」「すごーい!」日本に来て驚いたことは、朝礼での「起立!礼!」生魚は少し苦手だけど、これからトライしてみるつもり。留学の目標は「日本語を流暢に話したい」です。

ホストファミリー： A さんご家族

ホストスクール：相模原中等教育学校

トルコから来た  
ベステです



スイスから来た  
リビオです

ホストスクールでは、テニス部所属。スイスに部活動というものではなく、日本の学校は週の大半が練習でちょっと大変。授業は難しいけど一生懸命聞いていて、それをコピーして日本語を習得しようとしています。日本とスイスの学校の違いは、制服があるかないかぐらい。

スイスではドイツ語、イタリア語、フランス語、ロマンシュ語の4言語が話されていて、自分はドイツ語圏出身。スイス人は最低2言語話せて、3言語話せる人もざらにいます。国技はないけど、サッカーやテニスが人気です。チョコレートが大好きで、スイス人男性の一人当たりのチョコレート消費量は世界一だと聞いたことがあります。



秋  
組  
留  
学  
生

ホストファミリー： H さんご家族 ホストスクール：弥栄高校

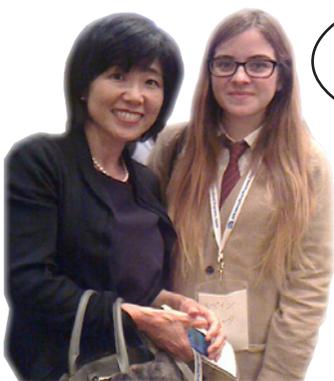
首都マドリッド出身。スペインの公用語はカスティーリャ語、バスク語、カタルーニャ語、ガリシア語。ホストスクールでは、E.S.S.所属。夜はテレビを観て、日本語を覚えようとしています。水泳と絵を描くのが得意で、絵は習いに行っていました。旅行が大好きで、高校在学中にドイツ、イギリス、ポーランド、イタリア、エジプト、ポルトガル、オランダなどを旅行しています。日本での留学後はできればアフリカでボランティア経験をしてから、大学に進学したいです。

ホストスクール：大和西高校

スペインから来た  
ヴィオレッタです

ホストファミリー：  
M さんご家族

ホストファミリー：  
I さんご家族



## 短期プログラム(MEXT 1か月)

オーストラリアからの留学生 ダンリー(D.F.)が、10/1~11/2の1か月、異文化理解ステップアップの短期プログラム(MEXT)で森村学園に通学しました。



10/22 ディエゴ、チュア、マリオス、ダンリーが、小学校訪問。国際交流の授業を担当しました！



写真: ホストファミリーのNさんご家族と

## 「里帰り」特集!

AFSの留学生にとって、派遣国は第二の母国となり、「里帰り」するように、帰国後、再訪しています。留学生だけでなく、その家族とホストファミリーとの交流にも発展しています。

K.H.さん: ササのホストマザー(2011~12年)

「おかあさん、大学が決まりましたので、チェコに遊びに来ませんか?」と誘われ、2年ぶりにササに会いに行きました。ご両親とも一緒に観光でき、年間ホストファミリーを経験したからこそその楽しい再会になったこと、感謝しています。



M.I.さん: 58期アメリカ派遣(2011~12年)

二年ぶりに派遣先のアメリカへ里帰りしました。当時は言葉に出来なかった感謝の気持ちを伝えることができ、やっと留学が次のステップに繋がったように感じます。



K.Y.さん: パスのホストマザー(2012年)

MEXTのプログラムで、タイからきた留学生パス。3週間という短い間でしたが、充実した時を過ごせました。クリスマスに、お母さん、弟と会いに来てくれました。



J.T.さん: Kさん(58期イタリア派遣)の母親

息子が1年間お世話になったイタリア・サルデーニャ島のホストファミリー宅を家族全員で訪問。この日のために学んだイタリア語で感謝の気持ちを伝え、親としてやっと一区切りという思いです。



## ホストファミリーをしてみませんか?

海外からの高校生を、家族の一員としてご家庭に迎え入れていただけませんか? 堪能な語学や立派なお宅はホストファミリーの条件ではありません。違う言葉や生活習慣に興味を持ち、お互いに理解しようと歩み寄る、そんな体験を通して「公平で平和な世界をめざす」AFS精神に共感くださる気持ちが第一です。外国に出かけなくても、我が家の居間が異文化交流の場になります。食事と布団は無償で提供をお願いします。医療費と学校関係費用はAFSが、お小遣いは本人が負担します。



## 支部会費のお願い

支部の活動は、支部会員の会費とみなさまからのご寄付で運営しています。年会費は3,000円です。留学生や派遣生との交流行事、留学生の学校用品や交通費などに使います。日本について知ってもらう、留学生の母国をもっとよく知る、そんな活動をしていきますので、皆さまからの温かいご支援を賜りますよう、お願いいたします。

振込先: ゆうちょ銀行 00140-2-448875

口座名義: 公益財団法人 AFS 日本協会 北神奈川支部

## お問い合わせ先

(公益財団法人) AFS 日本協会

TEL: 03-6206-1915 HP: <http://www.afs.or.jp>

AFS 日本協会 北神奈川支部

TEL: 080-5465-9984 (T.N.)

E-mail: [info-kitakanagawa@afs.or.jp](mailto:info-kitakanagawa@afs.or.jp)

## 60期派遣生帰国報告

60期(2013-2014)は、冬組はオーストラリアに1名、夏組はアメリカに3名、ベルギーに1名と、合計5名が北神奈川支部から派遣されました。そのうちの3名が、人生で誰でも経験できるとは限らない一生の宝物のような体験を、報告してくれました。

### 学んだことは、誰でも必ず居場所を見つけることができる、ということ

まさか自分がシャイだったなんて!

私の夢は「人を幸せにすること」、そして私の留学での目標は「人を知ること」でした。異文化の元で暮らす人々についてたくさん学んでどんな人にも理解力ある、思いやりある人になりたいと思って日本を発ちました。でも到着後すぐにぶつかった壁がありました。私はシャイだったのです。出発前までは自分のそんな一面の存在を認識していませんでした。というより、認識しないようにしていたという方が正確かもしれません。

「かあなら大丈夫な気しかしない!」「持ち前の明るさでいってこーい!」そんな言葉を友達からもらっていた私にとってこれは予想だにしていなかった事態でした。自分のことさえわかっていない私にとって「人を知る」なんていう目標は高すぎたのです。

時間はすごい勢いで過ぎて行き周りの留学生と自分を比べたりと焦りながらも殻をわろうともがいて、ホストファミリー、同じ支部のAFSer、と段々と素の自分が出せるようになっていきました。気づけば学校でも友達はたくさんできていました。

ただ、親友と呼べる人がいませんでした。「やっぱり日本には16年もいたのだからそりゃあ親友くらいはできるけれど10ヶ月じゃあそこまでの友達はできないんだ。そもそも親友が欲しいなんて豪華な悩みなのかもしれない」そう思っていました。

### 豪華な悩み?親友ができた

でもある日、私が所属していたドラゴンボート部で春のシーズンが始まりました。練習へ向かう途中たまたまチームメイトが同じ電車に乗っていたので、そのまましばらく話しました。みるみるうちにすごい勢いで意気投合して、そこから一気に仲良くなりました。彼女はいつでも元気発刺として天真爛漫な男勝りな子でした。彼女は私が10ヶ月しかいないただの留学生であること、他の人ほど英語が流暢じゃないこと、そんなことは一切気にせず、「私、あなたと仲良くなりたいの」とだけ言ってすごい勢いで私の周りであつた殻をぶち破ってきました。

私に親友ができたのです。本当に本当に私は彼女が大好きでした。一緒に歌って踊って毎日毎日が本当に楽しかった。そして帰国直前、彼女は手紙を私にくれました。飛行機の中でその手紙を開くとこんなことが書いてありました。

「私には今まで1番の親友と呼べる人がいなかった。でもね、かあなが救ってくれたんだよ。かあな、あなたには人を幸せにする力がある。あなたがいるとみんなが幸せになるんだよ」

私は彼女に私の夢を話したことはありませんでした。だから本当に嬉しかった。救われたのは私の方だということに、本当に本当に私のことを親友だと思ってくれていて本当に嬉しかったのです。

留学から帰って人のことを知れたかはわかりません。でも、私は人は絶対にひとりぼっちなんかににはならないし、どんなところへ行っても必ずそれぞれの居場所があるということを確認に学びました。留学中のすべての人との出会いに感謝したいです。(K.H. アメリカ)



ホストファミリーと



ドラゴンボート部のメンバーで行ったバンクーバー大会にて

## 日本では感じることのできないものをベルギーで見つけた

2013年8月下旬、僕はベルギーの地に着いた。初めての海外、全てが新鮮でまた不安だった。けれど、周りの人に助けをもらい、1年間をとてとても有意義に過ごすことが出来た。

留学して楽しいことは沢山あった。ホストファミリーに旅行に連れて行ってもらったり、学校の友達と金曜日の夜にパーティー、電車を3時間乗り継いで、積んでいった自転車で40分かかる所にある世界で一番小さい町と言われる Durbuy に行った。幼稚園でボランティアとして約1ヶ月働いた。また、留学生の友達とはパリに行ったり、W杯の応援をしたり、と数え出すときりが無い。もちろん辛いこともあった。友達がなかなか作れなかったり、言いたいことを伝えられないストレス。さらには盲腸にかかり入院、転校、本当に辛いことは山のようにあった。

だからこそ日本では感じる事のできないものがベルギーにはあった。特に色々なものへの感謝。非日常を過ごして見えてくる日常の非日常。どれだけ自分が恵まれた環境に居たのかなど。

時々留学しなかったらどんな今を過ごしているのだろうと考えることがある。が、想像することが出来ない。それほどこのベルギーで過ごした1年間は僕にとって欠かすことのできないものになった。(R.T. ベルギー)



## 「自分から」という姿勢



私の人生で最も大変で、最も充実した一年をミシガン州チェルシーの町で過ごしました。アメリカでの一年間は沢山の部活動やボランティア活動に加え、ホストファミリーや友達とも充実した時間を過ごしていたので、今振り返ってみると本当にあっという間に過ぎ去ってしまったなと感じています。

一年の留学中には数えきれないほどの経験をしましたが、特に何事も「自分から」という積極的な姿勢を学ぶことが出来ました。アメリカは発言をしていく社会です。受け身になって待っていても何も始まりません。私は自分から cross country や tennis に入ったり、ボランティア活動を探しました。また友達には自分から

笑顔で挨拶をし、「一緒にどこかへ遊びに行こうよ」と誘っていました。

一見、簡単なことのように思えますが、始めのころは日本とは違う文化や言語に理解できずに苦しむこともありました。しかし部活動での練習や試合、英語での勉強、また host family のために一生懸命お手伝いをするなど、自分から積極的に動いていった結果、言語や文化の壁を越えた友達を作り、充実した留学生活を送ることが出来ました。この体験は私の人生を変えた一生の宝物といっても過言ではないと思います。

私にこのような貴重な機会をくださった AFS の皆さん、そして留学中にいつも手紙を送って励ましてくれた家族の皆に感謝をしたいと思います。これからはこの経験を世界の人々のために活かせるような仕事に就いて、少しでも恩返しをしていきたいと思えます。どうもありがとうございました。(E.A. アメリカ)

